

# 第16回京都山城便教会

平成 30 年 10 月 7 日（日）

第 16 回京都山城便教会は、城陽市立北城陽中学校で実施しました。参加者は 9 名。最初に、DVD「掃除の道」の哲学編を視聴し、鍵山相談役の思いに触れてからトイレ掃除をスタートしました。



今回の参加者は、初めての方が 4 名、2 回目の方が 2 名と経験の少ない方が多かったので、基本的なやり方だけを説明し、とにかく感じてもらうとうと便器に向かっていただきました。説明の際に、トイレに手を突っ込んだ瞬間、初めての参加者の方の顔が引きつったのが印象的でした。しかしながら、最初はとまどいを見せられた方も便器を磨くにつれて、どんどんと熱を帯び、最後には「もう終わりですか。あそこを取り除くまでもうちょっとやりたいのですが」という声が聞こえるほど。「覚悟の左手」ができた瞬間、人が変わっていくことを改めて感じました。



<Before>



<After>



<Before>



<After>



今回のトイレは、水垢がかなりきつく、それを取るのに相当時間がかかりました。ひたすら便器と向き合っていたが、気が付けば1時間30分が過ぎていました。その間、ほぼ無言。「無言清掃でやりましょう」と言っていないのに、参加者の皆様は勝手に無言で黙々と掃除をされていました。

### 【参加者の感想】

- ・こういう場がなければきっと一生やっていなかったと思う。落ちない汚れはなく、いくらこぼりついていても少しずつ取れていることを感じる事ができた。
- ・スポンジ、ナイロンたわし、サンドメッシュを使う境目が難しかった。
- ・無心でやった。しかし、続けないと分からないことがあると思う。
- ・鍵山先生は、10年間1人でやっておられた。知識では知っているが、それが自分にできるかと考えると本当にすごい。良いことをしていると思っているうちは継続できないと思う。
- ・草抜きは目に見える達成感がある。しかし、トイレ掃除は、汚れが見えないところにあたりするので、覗き込まなければならず、すべてをきれいに切り切るというのは難しい。しかし、そこに意味があると感じた。



今回、排水溝の釣り鐘がさびで変形しており、取り出すことに相当苦戦しました。そして、その錆をとるのに金槌を使ってみました。すると、ぼろぼろと錆がとれ、元の形に近いところまでにできました。今までトイレ掃除をしていて金槌を使うことが初めてだったので、道具が揃っているから、このような工夫が生まれたのだと思い、道具を揃える大切さを改めて学びました。今までとはまた違った気付きを得ることができた便教会となりました。(小笹大道)

